

2025年度業務実績報告書

提出日

2025年12月15日

1. 職名・氏名 教授・木村小夜
2. 学位：博士（文学）奈良女子大学、1994年
3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
① 担当科目名（単位数）主たる配当年次等	国文学（2単位）1，2，3年生
② 内容・ねらい	太宰治の翻案作品集『新釈諸国噺』中の四篇について、西鶴の原典との比較を中心に作品への目のつけ方や読解方法を講述した。前近代から近代に向けて変貌する時代の価値観と、時代を超える普遍的な人間像の双方について、小説を題材として理解を深めることを目的とする。詳細は、シラバス参照
③ 講義上の工夫	a. 遠隔授業、とりわけオンデマンド授業であるため、一方的でただ受け流すだけの受講姿勢とならぬよう、説明しながら書画カメラでプリントに板書し、可能な限り対面授業に近い形態で動画を作成した。 b. 各作品解説の最後に、全体のまとめや最大の謎の解説となる具体的な課題を出し、二百字程度で解答させ、次回の動画上でかなり詳細にフィードバックを行った。またこの折に、よりよい文章を書いてもらうために添削なども行った。 c. 受講状況確認のため、毎回コメントを提出させ、内容に即して個別に返信した。授業内容の誤解修正にはとりわけ効果があったと思われる。
① 担当科目名（単位数）主たる配当年次等	国文学史（2単位）1，2，3年生
② 内容・ねらい	近代日本文学の流れを辿る。主として明治以降の小説・作家についての教養を身につけると同時に、文学の範囲内にとどまらず、近代という現在の価値観の原型を形作ったとも言える時代への理解を深める。詳細は、シラバス参照。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	a.文学史は暗記物ではなく、時代の推移の中で理解すべきもの、との考えから、極力、文学以外のトピック（とりわけ目に見えるモノ）と結びつける内容で授業を作っている。また、作品や著述のさわりを読み、粗筋を極力紹介。作品と作家と何々派を結びつけられれば可、というものにはしたくない。 b.板書事項は主として説明のために使用し、学生には内容に集中してもらうため、知識として必要な情報を配布プリントにまとめている。文学概論と同様、プリントは試験対策ともなるよう、各項目でのおさえどころを冒頭に示している。 c. 受講者に対しては一方的な講義にとどめず、問いかけも頻繁に行い、意見紹介を行った。また、講義が一方通行にならぬよう、二百字程度の小課題を提出させ、次回の冒頭でそれを紹介しつつ講義内容に組み込む。また課題内容は、その時間の授業全体を踏まえた上で自由な思考力を問うものを設定している。
① 担当科目名（単位数）主たる配当年次等	文学概論（2単位）1，2，3年生
② 内容・ねらい	いくつもの文学作品に共通して表れる様々な対比や世界間の越境など、作品に組み込まれている

装置や普遍的な主題について講述する。具体的には、小説が書かれていく過程と密接に関わる「自分について書くこと」、即ち日記や手紙などのジャンルから、様々な作家や文章を引き合いに出して考察を深めることを目的とする。詳細は、シラバス参照。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

- a. 講義が一方通行にならぬよう、数回に一度、二百字程度の小課題を提出させ、次の冒頭でそれを紹介しつつ講義内容に組み込んだ。また課題内容は、その時間の授業全体を踏まえた上で自由な思考力を問うものを設定している。
- b. 資料については、理解に集中して欲しいと考え、講義内容を後で再現出来るようなものを作成。試験対策ともなるよう、各項目での要点を冒頭に示す。
- c. 授業中盤での息抜きとして、昔のヒットソングを聴かせる。歌詞を配布し、解釈や時代背景説明を行い、関連する小説などを紹介。課題にも組み込んだ。

① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等
導入ゼミ (1 単位) 1 年

② 内容・ねらい

大学での勉学に必要な不可欠なレポートの書き方・発表レジュメの作り方・文献の調べ方・リストの作成方法など、基本的な作法を身につける。詳細は、シラバス参照。

③ 運営上の工夫

- a. 学生のモチベーションを優先すべく、発表の題材となる作品、レポート課題は自発的に選ばせた。しかし、今年度より学籍番号で機械的に振り分けるようになったため、そもそも素材とするもの(小説)への関心に大きな落差が生じた。このクラス分け方法は学習の動機づけに関して大いに問題を孕むもので、教員の工夫にも限界がある。
- b. 生成AIの使用を極力封じるため、提出物は基本的に手書きとした(こうした問題は、aで指摘したクラス分け方法を元に戻すことによってかなり解決可能)。特にレポート作成の過程にあっては、自分の思考や概念同士の関係を手書きで結びつけたり、メモを書き込んだりする段階が不可欠となる。よって、最後に提出される文章の完成度よりもむしろ、プロセスと受講生自身の思考の深まりを重視した。

① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等
教養ゼミ「パロディを読む」(1 単位) 1 年生

② 内容・ねらい

森見登美彦『新釈 走れメロス 他四編』の各編について原典と比較しながら精読する。全体で議論の後、発表・質疑へと進める。導入ゼミに引き続き、自発的な問題点の発見と表現力を培うことがねらい。詳細は、シラバス参照。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

- a. 学生のモチベーションを優先すべく、発表の題材となる作品、レポート課題は自発的に選ばせた。
- b. レジメ作成・これに基づく口頭発表・質疑という演習の基本を習得させるため、作品への着眼点などを最初の授業で講述した上で、教員がまず発表のデモンストレーションを行った。
- c. 自分で問題点を見つけるという大学での勉強の姿勢と高校までの(とりわけ受験国語的で)受動的な勉強との違いを示し、後者からの脱却を図っている。レジメ作成と発表については、メールなどでの個別指導を行い、ゼミの時間が有意義に使えるように努めた。
- d. 説明的文章、いわゆるレポートを書く機会是他分野でも多いので、ここでは扱った作家と同じような流儀でパロディを書くことを課題として試みた。授業での作品理解の深まりが実作の内容にまで表れ、書いた本人が意識しなかったことを読み取る学生もいるなど、書かれたものと書き手の関係もかいま見える。学生相互の刺激にもなり、ゼミが興味深い展開になることが多い。

(2) その他の教育活動
演劇部、文芸部、日本遊戯振興会、よっしゃこい、朝活サークル顧問。

3. 研究業績

(1)研究業績の公表
①著書 (共著)
②学術論文 (査読あり)
③その他論文 (査読なし)
④ 学会発表等
⑤その他の公表実績 「書評・岡村知子著『文学と地域—自他が尊重される〈場〉を問う』 2025年『社会文学』61号、日本社会文学会
(2)科研費等の競争的資金獲得実績
(3)特許等取得
(4)学会活動等
日本文学協会近代部会委員 (2021,12～継続)、昭和文学会幹事 (2024～継続)

5. 地域・社会貢献活動

① 国・地方公共団体等の委員会・審議会
② 地方公共団体等の調査受託等
③ (公益性の強い) NPO・NGO法人への参加
④ (兼業規程で業務と見なされる範囲内での) 企業等での活動
⑤ 大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等 福井県立藤島高等学校「教養テキスト」編集委員 (編集会議に出席)
⑥ 公開講座・オープンカレッジ等の開講

6. 大学運営への参画

(1)補職 (副学長、部局長、学科長)
(2)委員会・チーム活動
FD部会委員・職場委員会委員
(3)学内行事への参加
(4)その他、自発的活動など